

エダマメの品種紹介

雪印種苗(株) 千葉研究農場

近江公



エダマメの品種比較試験・トンネル早熟栽培（千葉研究農場）

1 はじめに

エダマメは依然としてビールなどのつまみとして消費されるケースが圧倒的に多い野菜ですが、食味、栄養価など品質重視の時代を迎え、女性や子供たちを含めた新たな需要拡大が期待できる野菜の一つです。

たとえば、新潟県や山形県では古くからエダマメ（いわゆる茶豆）をおやつや副食として家庭で食する習慣があり、また各地で、主に大豆の在来種を利用した料理が残っており、植物性たんぱく質や繊維、ビタミンを豊富に含んだ大豆（エダマメ）は魅力満点の作物と言えます。

2 当社での品種改良の取り組み

当社でのエダマメの品種改良は、元来、北海道を基盤とした優良野菜の品種改良の一つとしてスタートし、種子の採種適地が北海道であるとの立地条件を生かし、昔から積極的に行ってきました。

周年栽培に適した早生（夏大豆）系を中心に、大粒（大莢）で密に着莢し、食味に優れる系統を在来種や大豆品種の中から母材として選抜し、これらの交雑から選抜、固定を重ね、品種を育成します。通常、交雑（人工交配）から育成を完了するまでに8～10年ほどかかります。

近年、エダマメにおいても他の野菜同様、品種の細分化が目覚ましく、各産地、作型に適合した品種が求められ、当社においても、今後ともさらにラインアップの強化充実を図っていく予定です。ここでは、現時点でほぼ育成が完了しつつある系統を含め、当社エダマメの品種ラインアップについてご紹介致します。

3 当社エダマメの品種紹介

(表1～3参照)

1) 早生種

サッポロミドリ

早生、白毛の代表的品種で、昭和49年より販売開始。根張り、草勢が強い早生品種として、移植主体の枝付き出荷産地を中心に、今でも根強い人気があります。

莢は濃緑、大莢でふっくら膨らみ、ボリューム感があり、特に甘味が強く食味に優れます。葉は濃緑、大葉で草勢強く、移植時期や施肥量などによる草勢のコントロールが必要です。

S B 1002（仮称）

サッポロミドリより1～2日程度早い白毛の早生種で、平成10年春より販売開始予定。

葉は鮮緑、やや小葉で、草勢はサッポロミドリよりおとなしく、コンパクトにまとまります。莢は鮮緑、やや大莢でふっくら膨らみ、特に3粒莢が多く、上物収量で多収となります。また、低温

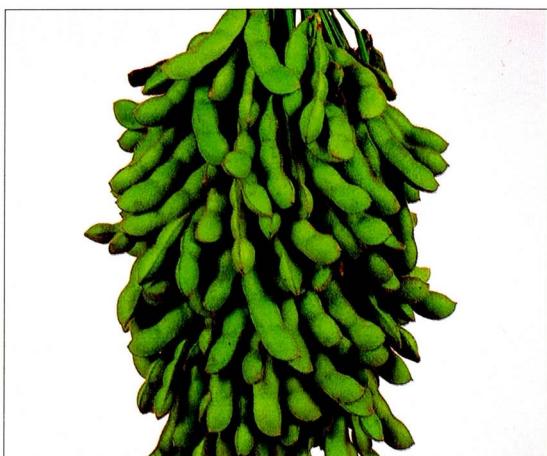


写真1 サッポロミドリ

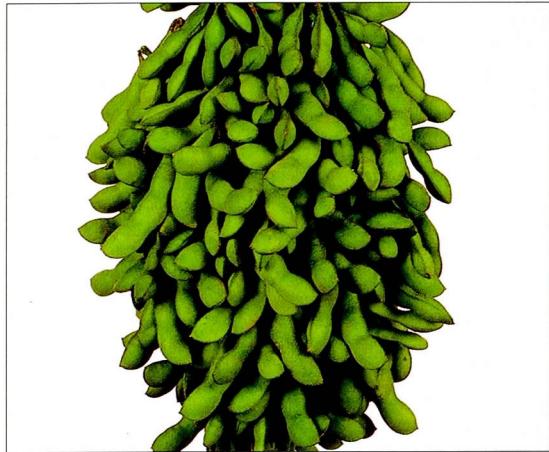


写真2 ユキムスメ

の多収となります。

キタノスズ

ユキムスメとほぼ同じか1～2日程度熟期の早い中早生種で、昭和60年より販売開始。

草勢はユキムスメよりもひとまわり小さく、コンパクトにまとまります。莢は濃緑、やや大莢で、特に3粒莢の割合が多く、着莢良好な多収品種です。

3) 中晩生種

サヤニシキ

播種後95～100日程度（東北標準）で収穫となる中晩生種で、平成4年より販売開始。

草勢は極めて強く、早播きはつるぼけ、倒伏の危険性が高いので、6月以降の播種とします。莢は濃緑で、極めて大莢となりボリュームがあり、外観に優れますが、反面、過熟での収穫になりやすいので、適期収穫の徹底が必要です。分枝が多く、1株の着莢が多いので、やや株間を広げ、1株1本仕立てにして上物収量確保に努めます。

4 品種の上手な使いわけ

それぞれ熟期や特性が異なる品種をうまく使い分け、継続出荷を目指しましょう。

たとえば、枝付きで出荷するのか、莢もぎで出荷するのか、あるいは直播するのか、移植するのか、また、ハウスやトンネルを利用した早出しか、反対に露地での遅出しかなど、作型や出荷形態によって品種を変える必要があり、それぞれに適した品種を選んで栽培する必要があります（表4）。



写真3 莢もぎエダマメ（徳島産）

表4 各品種・系統の適作型および利用形態

熟期	品種名	出荷形態		枝付き（移植）		莢もぎ（直播）		
		作型	ハウス・トンネル	露地（マルチ）	トンネル	露地（マルチ）	露地	
早生	サッポロミドリ	●	●	●	●	▲	×	
	S B 1002 *	●	●	●	●	▲	×	
中早生	サヤムスメ	●	●	●	●	●	●	▲
	ユキムスメ	×	×	●	●	●	●	▲
	美園グリーン	×	×	●	●	●	●	▲
	キタノスズ	×	×	●	●	●	●	▲
中生	S B 1009 *	×	▲	▲	●	●	●	○
中晩	サヤニシキ	×	×	×	●	●	●	

評価： ●：最適、○：適、▲：場合によって適、×：不適

*： 試験（試作）系統

一般的には、枝付き産地においては、品種をあまり変えずに、播種期をこまめにずらしながら収穫時期を調整するケースが多く、反対に莢もぎ産地においては、早生～中晩生の品種を組み合わせて収穫するのが実態です。

現在、育成中のS B 1009はサヤムスメ、ユキムスメなどの中早生種とサヤニシキの中晩生種をつなぐ中生種として、継続出荷へ向け、今後期待される熟期の系統です。

5 むすび

以上、ご紹介致しました品種の種子のご用命につきましては、最寄りの営業所までお問い合わせいただければ幸いです。

なお、本文中の試験系統につきましては、種子量がまだ少なく、ご迷惑をおかけ致しますが、翌春より本格販売となりますのでご了承下さい。